

研究ノート

見て描く幼児期の描画活動の発達過程と保育者の援助に関する考察（１） —“遊び着”を描く活動を通して—

○川崎和美*1 石川正一*2

キーワード：描画活動、幼児の発達、保育者の援助、観察画、遊び着

I-1 はじめに

本論は、日本のあらゆる保育現場において実践されている描画活動を通して、幼児がおおよそどのように発達していくのかを考えていくものである。そして、幼児の発達に深くかかわる保育者の援助との関連を考察していくものとする。幼児の描画活動と幼児の発達の状況、それに保育者のより良い援助が上手く絡まり合うことで、描画活動の質が向上し、幼児への発達理解が深まる。そして、保育者の質も向上していくのではないかと考える。このような実践を理論付けしていくことにより、今後、幼児教育に携わる人に向けて一つの参考となっていくことを願う。

幼児が描く絵は、個々それぞれの描き方があり、100枚の絵があれば100種の絵が存在する。しかし、同じ対象の物を見て描いた場合は、どうであろうか。物を観察して描くという状況から「観察画」と称するが、これも描画活動の一つとして捉えられる。幼児期に属する3歳児から6歳児が同じ対象物をテーマにして描いた観察画を年齢や絵の特徴などの視点で分析することによって、幼児の発達の変容が明らかになるのではないかと考える。また、年齢におけるおおよその発達の特徴や描画表現の特徴も分かってくるのではないかと考える。

また、これらのことが解かれていくと、幼児とは何か、幼児がもつ個性とは何かという保育者が知ろうとする幼児理解に繋がっていく。それぞれの幼児についての理解が深まると、保育者の援助方法のヒントが生まれてくると考える。

幼児の描画活動や発達に関しては、美術教育学者ヴィクター・ローウェンフェルドの『美術による人間形成—創造的発達と精神的成長』やローダ・ケログの『児童画の発達過程』、ハーバート・リードの『芸術による教育』などに代表される様々な研究や著書はあるが、それらは自由画を対象としている。

しかし、観察画に焦点化し、幼児の発達と保育者の援助を関連付けた研究や論文は、今現在、見当たらない。

そこで、このような保育実践の積み重ねをまとめていくことが、保育内容と保育者の質の向上、さらには、幼児教育のレベルアップになっていくと考える。

以上のことから、観察画の保育実践を通して幼児期の発達の特徴を捉え、保育者の援助を考えていくこととする。

I-2 観察画の定義

広辞苑では「観察画」の文言は掲載されていない。また、美術用語としても使用されていない。

そこで、本研究における「観察画」とは、どのようなことなのかを定義付けする必要があると、下記の要素が含まれたものを「観察画」とした。

- ・幼児が対象物を見て、感じたことや思ったことが表されている絵。
- ・見るだけでなく、触る、嗅ぐなど実際にかかわりながら描く絵。
- ・視覚的写実性¹⁾を求めるものではない。

*1 学校法人小田学園富田幼稚園 主任教諭

*2 至誠館大学 名誉教授

II-1 研究の目的

本研究は、まず、幼児期の自然な行為の一つとして考えられる描画活動を主軸に行う。その活動を通して、幼児期における発達のおおよその特性を導き出し、個々の幼児の発達に対する理解を深めていく。最終的には、幼児の特性を生かした援助を考え、成長を促し、保育現場の環境を構成していくことである。

II-2 用語の統一

本論では、以下の用語を次のように定義して述べていく。

「幼児」とは、幼稚園在籍園児のことをいう。「描画活動」とは、保育実践中の幼児が描く活動を示す。「観察画」は、同年齢クラスにおける保育実践中に一つの同じ対象物を観察して描いた作品を示す。「遊び着」とは、衣服が汚れないようにするための着衣である。主に造形活動の時に着る。「クロッキーブック」とは、白クロッキー紙 52.3g/m² の用紙 100 枚入り冊子である。「クロッキー紙」とは、「表面はザラザラとしていて、鉛筆の黒鉛がのりやすいという特長」があり、「筆圧によって濃淡・強調をつけやすく、クロッキーはもちろん鉛筆画やデッサンにもピッタリな用紙」である²⁾。本研究では、縦 218×横 255×厚 9mm、335 g の製品と縦 308×横 255×厚 9mm、500 g の製品を指定する。「保育のねらい」とは、安定した園生活を送り、充実した活動ができるように保育を通じて育みたい資質や能力を幼児の生活する姿から捉えたものである。

III 研究の実践

III-1 研究の方法

本研究では、II-1 で述べた研究の目的を実践していくために保育現場の環境を以下のように構成した。

(1) 対象園；学校法人小田学園富田幼稚園

(2) 実施日；2023 年 1 月下旬～2 月上旬

この時期に取り組む理由を以下に記載する。

・園生活 1 年間の終盤であり、それぞれの幼児の

成長が見られる時期であること。

・対象園では、「展覧会」という保護者や地域の人が幼児の絵画作品を観覧できる園行事が 2 月中旬に開催される。そこで、全園児の観察画を展示していること。

(3) 対象児；

3 歳児 (39 名：男児 20 名、女児 19 名)

4 歳児 (42 名：男児 19 名、女児 23 名)

5 歳児 (37 名：男児 17 名、女児 20 名)

(4) 実施場所；各クラス保育室

3 歳児 2 クラス (3A19 名、3B20 名)

4 歳児 2 クラス (4C20 名、4D22 名)

5 歳児 2 クラス (5E20 名、5F17 名)

※クラス名は 3A～5F 表記とする。

(5) 保育テーマ；観察画「遊び着」を描こう

(6) 保育のねらい；

(3 歳児)

- ・「遊び着」を見て自分の思いのままに表現する。
- ・描くことを楽しむ。

(4 歳児)

- ・「遊び着」を観察したり触ったりしながら、対象物への親しみを感じながら表現する。
- ・対象物を見ながら自分なりに表現することを楽しむ。

(5 歳児)

- ・「遊び着」を観察したり触れたりしながら形や素材の特徴を捉える。
- ・気付いたことや感じたことを友達や保育者に伝え、共有する喜びや表現することを楽しむ。

(7) 画材について；

・3B 鉛筆。芯が柔らかく、筆圧が弱い幼児でも描きやすいため使用。

・用紙；縦 218mm×横 255mm サイズのクロッキーブック用紙。幼児の用紙に対する視野を集中しやすくするために 3 歳児～4 歳児が使用しているサイズを使用。

(8) 観察画の取り組み

①日常的に絵を描く環境作りについて

1992年からクロッキーブックに幼児の筆圧でも線が残りやすく芯が柔らかい3B鉛筆を使用し、日常的に絵を描く活動を継続している。幼児が、描きたいものを描き、保育者に描いた内容を話し、保育者が、日付とタイトルを記入する。このやり取りが、幼児と保育者との人間関係を築き、幼児側も描く表現の楽しさを満たしていくと考えている。

②観察画の取り組みについて

①の鉛筆画の活動については、基本的にテーマは幼児に任せ、描きたいものを好きなように描いている。しかし、テーマを決めて描く共有体験も必要ではないかと考え、2008年から継続的に観察画に取り組んでいる。その理由として、

- ・3歳児から6歳児までの幼児が、一つの対象物を観察し描くことにより、それぞれの見方や捉え方の違いや個性が把握できること。
- ・おおよその年齢における表現の傾向や変容が分かること。
- ・上記2点から、幼児一人一人の特性や長所、課題などが見出され、次への援助に繋げていくことができること。

以上のことから、観察画活動は、幼児の発達と保育者の援助に対して意味があることが分かり、継続して行っている。

③観察画を描く環境について

- ・テーブルの上にテーマ（対象物）を置き、2～4人の幼児が観察しながら描く。どの角度から描くかは幼児が決める。
- ・対象物を近くで見たり触ったりする。
- ・時間は幼児によって異なり、1分～50分程度である。描き続ける幼児は2日間にわたる場合もある。
- ・時期は、1年間の成長がピークと思われる1月下旬から2月上旬に行う。

④観察画のテーマ（対象物）について

- ・幼児が興味をもつもの。（身近なもの、目新しいものなど）
- ・幼児がどのような線で描くのかについて、保育者自身の興味が湧くもの。（フォルム、繊細さ、材質感など）
- ・幼児がどこに視点をもつかについて、保育者に関心があるもの。

これらの観点を持ち、保育者が具体的に数点を提案し、検討会議を行う。会議では、今の幼児の姿に照らした上で自分が推薦する理由を話していく。全保育者が納得したものがその年のテーマとなる。

【テーマ歴】

2008年「カボチャ」、2009年「ハブラシ、コップ、歯磨き粉」、2010年「ハサミ」、2011年「スイセン」、2012年「ミカン」、2013年「ダイコン」、2014年「ロウバイ」、2015年「幼児用白靴」、2016年「糊」、2017年「桜島ダイコン」、2018年「ヒヤシンス」、2019年「縄跳びの縄」、2020年「牛乳瓶」、2021年「消毒スプレー容器」、2022年「セロテープ台」、2023年「遊び着」

⑤テーマが「遊び着」に決定した理由および保育者の着目点

i) 幼児との関係

幼児は園生活の中で造形活動の時に遊び着を着用している。必要な時に個人ロッカーから出して着用し、自分で畳んで収納している。周囲の幼児も同じものを着用しており、自分が着る姿だけでなく友達が着用している姿も見ている。以上のことから、幼児と遊び着は、身近な関係にあるものである。

このような身近な関係にあるものは、年齢問わず、抵抗なく受け入れられ自然な雰囲気の中で描くことができるのではないかと。

反面、見慣れ過ぎているため自分の中にある遊び着の概念で描いてしまう可能性がある。そのため、保育者は、改めて幼児自身が観察したくなるポイントをテーマに含ませることが必要ではないかと。

ii) 材質や形状

材質は薄めの綿生地である。これまで取り組んできたテーマの材質は、自然物や青果、プラスチック、ビンなどが多く、布製品は初めてである。幼児は、見た目も着用感も柔軟なものをどのような線で描くのか、保育者が関心をもった。

布の組み合わせは、前身頃、後身頃、両袖、首回り、ポケットとなっている。幼児は、これらの組み合わせを意識して描くのか、年齢における着目点の特徴などがあるのかを知ることの意味がある。

以上のことから、保育者側の視点における新鮮な発見があることに期待し、それは、幼児理解の幅を広げていくことに繋がるのではないかと考えた。

iii) パーツや柄との関係

遊び着には、首元にある丸いボタン、園名のロゴが書かれたポケット、ゴムで絞っている袖口、チェック柄などの特徴がある。

幼児にとって身近な着衣ではあるが、これらの特徴に気付きながら生活している幼児は少ないと推測する。改めて観察させることにより、日頃気に留めていなかったことが新たな発見となり、幼児の心が揺さぶられるのではないかと。

また、それぞれのパーツや柄に対しても、興味の度合いや物の捉え方、表現の仕方など、おおよその年齢における特徴も見られるのではないかと。

これらのことから、幼児がどのパーツに着目したり拘ったりしながら描こうとするのか、また、柄についても同じような表現が見られるのか、独創的な表現が見られるのかなどと、幼児の表現の幅や個性を見ることが出来る良い機会になると考えられる。

iv) 平常の状態への付加

遊び着は、収納時の畳んだ状態、または、着用時の広げた状態であることがほとんどである。しかし、一度着用したら幼児の動きと一緒に遊び着も状態を変えていく。幼児の動きが見られる状態で提示した方が、幼児自身が遊び着を着ている感覚に近づき、描く楽し

みにも繋がるのではないかと。

では、どこに動きを付加していくのかを考えたところ、腕を動かしていることが一番多いと判断し、腕(袖)に動きを付けるように付加し、片袖を畳んだ状態で提示することに決まる。

畳んだ状態にすると、下になる前身頃と上になる袖に重なりが生じ、前身頃では見えなくなる部分も出てくる。保育者は、幼児がこの平面同士の重なりのところや見えない部分をどのように表現するのか着目することにより、幼児の限りない可能性に改めて気付くことができるのではないかと期待した。

以上が、「遊び着」がテーマに決定した理由と実践していく上での保育者の着目点である。

(9) 実際の取り組みについて

・保育室内に観察画コーナーとしてテーブル2~3台、その上に遊び着を置く。

・遊び着のサイズや折り畳み状態を統一するために共通の物を使用する。※写真-1 参照

・テーブル上の対象物の置き方やテーブルの配置は、各クラス担任に任せる。

・幼児2~4人ずつ観察し、好きな場所から描く。

※写真-2 参照

・描き終わったら順次交代をしていく。

・対象物「遊び着」は、右袖を畳んだ状態で、ボタンやポケット

トは見える状態にして、広げて提示する。

・テーブルは園児用テーブルで、幅120cm×奥行60cm×高さ51cm。

・椅子は園児用椅子で、座板までの高さ29cm。

・椅子に着席した状態で描く。

・各クラスの取り組み日時と環境、および活動所要時



写真-1 遊び着



写真-2 活動風景

間は以下である。

表-1 3歳児 3Aクラスの保育環境

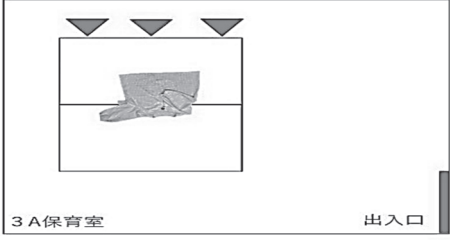
日時	2023年1月24日(火)、30日(月) 10:30~11:20am	
保育室環境		
所要時間	Short time	約1分
	Long time	約8分
	Ave. time	約2分30秒

表-2 3歳児 3Bクラスの保育環境

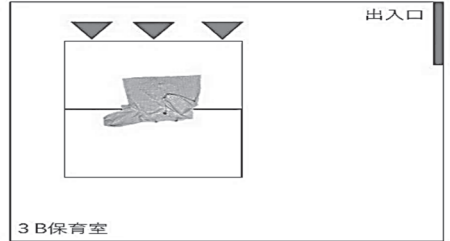
日時	2023年1月26日(木)、30日(月) 10:30~11:00am	
保育室環境		
所要時間	Short time	約3分
	Long time	約10分
	Ave. time	約6分

表-3 4歳児 4Cクラスの保育環境

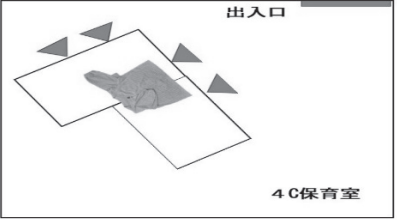
日時	2023年1月13日(金) 10:30~11:20am	
保育室環境		
所要時間	Short time	約3分
	Long time	約30分
	Ave. time	約8分

表-4 4歳児 4Dクラスの保育環境

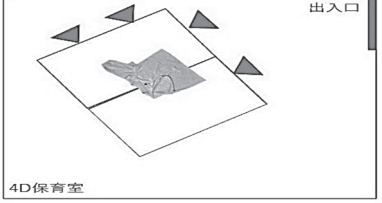
日時	2023年1月13日(金) 10:30~11:20am	
保育室環境		
所要時間	Short time	約7分
	Long time	約20分
	Ave. time	約15分

表-5 5歳児 5Eクラスの保育環境

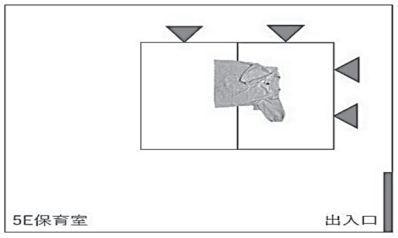
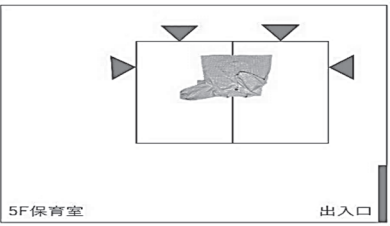
日時	2023年1月19日(木) 10:30~11:30am	
保育室環境		
所要時間	Short time	約6分
	Long time	約25分
	Ave. time	約15分

表-6 5歳児 5Fクラスの保育環境

日時	2023年2月9日(木) 10:30~11:20am	
保育室環境		
所要時間	Short time	約5分
	Long time	約50分
	Ave. time	約15分

※表中  テーブル、  幼児

全クラス全員 (118 名) が抵抗なく描いていた。描くことに抵抗がなかった要因として、園生活では毎日、クロッキーブックに描く活動があり、描くことが習慣化されていると考えられる。

全園児 118 作品を前述の保育者の着目点に基づき検証していく。検証する視点は、着眼点の (ii) 材質や形状、(iii) パーツや柄との関係と、(iv) 平常の状態への付加についてとする。

検証の前に保育者の着眼点をより明確にするために次のように表記を変更する。(ii) 材質や形状 (iii) パーツや柄との関係を合わせて「(A) 形状・パーツ・柄の表現」とし、(iv) 平常の状態への付加を「(B) 重なるの表現」とする。

「(A) 形状・パーツ・柄の表現」と「(B) 重なるの表現」のそれぞれについて、描き表し方の個々の違いや特徴、年齢におけるおおよその違いや特徴を分析していく。それによって、個々の幼児の個性を再認識すると共に、その幼児の観察視点が見えてくる。幼児がもつ表現の実態や可能性は、今後の援助に結びつけていくことができる。また、おおよその年齢ごとの特徴を保育者が知ることで、発達年齢に応じた援助の手立てになると考えられる。

検証 1

※文中の図は、「クラス表記 3A～5F (性別 ; M 男児、F 女児/年齢)」を示す。全作品の中から特徴が顕著に見られる作品を抽出している。

(A) 形状・パーツ・柄の表現から分かったこと

●形状の表現とおおよその年齢の特徴

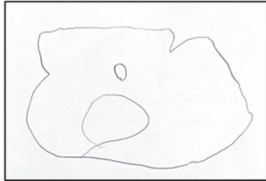
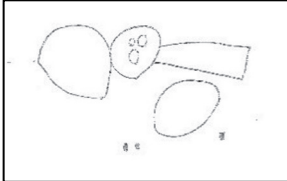

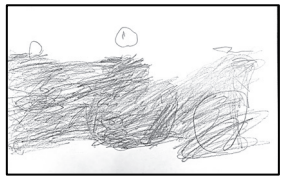
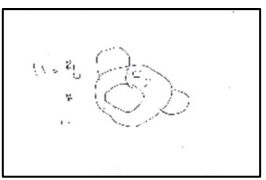
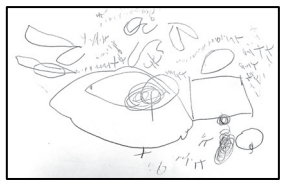
まず、形状に含まれる布の材質感については、活動中または、個々の表現の中でも幼児はあまり関心がないことが分かった。触った感触や感覚よりも視覚的に捉える方が、描く刺激になっている。

次に、表現とおおよその年齢の特徴についてである。

3 歳児～4 歳児にかけて多く見られた表現は、全体を一つの固まりとして一筆描きのように描く (※図-

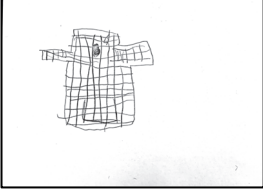
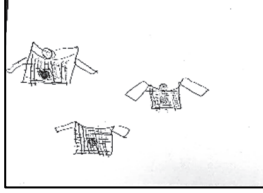
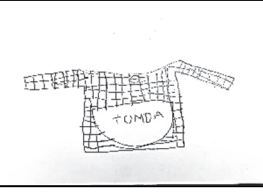

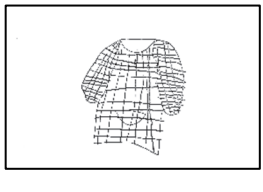
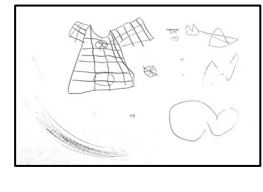
1)、または、視覚的に捉えたパーツをそれぞれ用紙上に思いのまま描いている。それらが繋がっていたり (※図-2)、または、パーツはバラバラだったり (※図-3) している。首回りなどの曲線を丸みがある線で表そうとしている。

年齢の特徴としては、一つの物体として捉えていると考えられる。塗ることで面として捉え、形を表そうとしていることが分かる (※図-4)。描こうとしている全体の形やパーツは、シンプルな線で描いている。身頃や袖の繋がりを描こうとしたり (※図-5)、それらを分けて描こうとしたりしている (※図-6)。

	
図-1 3A (F/4.9)	図-2 3A (M/4.0)
	
図-3 3A (M/4.5)	図-4 3A (M/4.3)
	
図-5 3A (F/4.0)	図-6 3A (F/4.2)

4 歳児～5 歳児では、全体的な形を描く (※図-7)。身頃と袖との縫い合わせ部分や首回りの縫い合わせ部分を描こうとする (※図-8)。ポケットを描く幼児が多い (※図-9)。ポケットの位置は、ほとんど固定化しているが、描き方にも拘りが見られ表現は様々である。また、着衣している自分を描いている幼児もいる (※-10)。

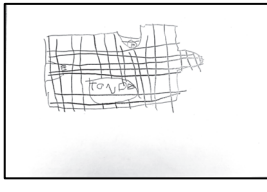
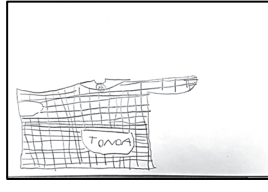
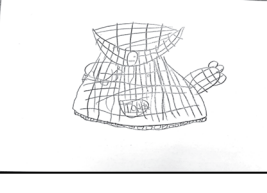
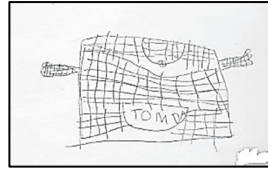
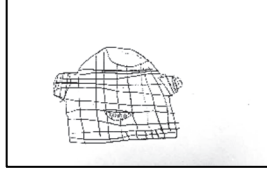
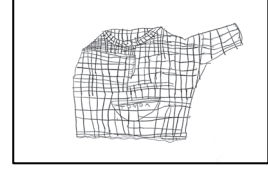
年齢の特徴としては、それぞれの縫い合わせ部分に気付き、パーツを意識して描こうとしていることが分かる。また、パーツごとに線の方向やニュアンスを変えて違いを表そうとしている。ポケットについては、多くの幼児が描いているため、身近なものであり着目しやすいと考えられる。首回りについては、首の後ろの線を描く（※図-11）、描かない（※図-12）という違いもある。

	
図-7 4D (M/5.1)	図-8 4D (M/4.11)
	
図-9 4C (F/5.1)	図-10 4D (F/4.11)
	
図-11 4D (F/5.6)	図-12 4D (F/5.4)

5歳児～6歳児では、身頃と袖、または、身頃と首回りなど、パーツ同士の関係を意識し始める（※図-13）。ポケットでは、ロゴへの注目が高く、似た文字表記で描こうとする（※図-14）。前身頃から見える後身頃の部分に気付いて描こうとする（※図-15）。

年齢の特徴としては、パーツの描き分けの意識や首回りの描き方に工夫が見られる。文字や記号への興味が高いため、ポケットのロゴへの拘りが見られる（※図-16）。普段、着用していたら見えない後身頃の部分に気付き、自分が知っている状態を描こうとしている



（※図-17、図-18）。

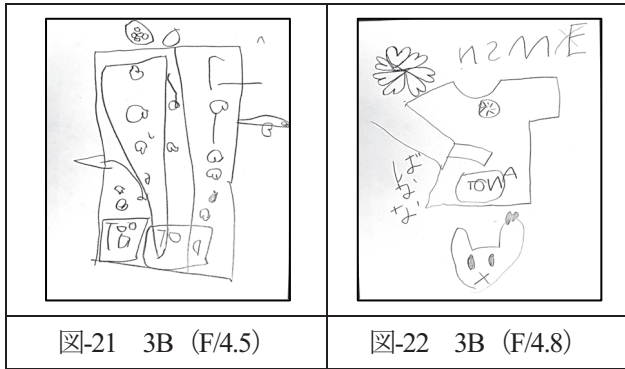
	
図-13 5E (M/6.3)	図-14 5E (M/6.10)
	
図-15 5F (F/5.11)	図-16 5E (F/6.9)
	
図-17 5E (F/5.11)	図-18 5F (F/5.10)

●パーツ（ボタン）の表現とおおよその年齢の特徴

3歳児～4歳児では、主に一筆で円形を描く表現が多い（※図-19）。二重や幾つも描くものもある（※図-20）。円形の中に4つの円を描き入れる（※図-21）、円の中に4本の線を入れる（※図-22）など、ボタンの穴の意識が見られる。また、面の意識があり塗り込もうとする表現も見られる。

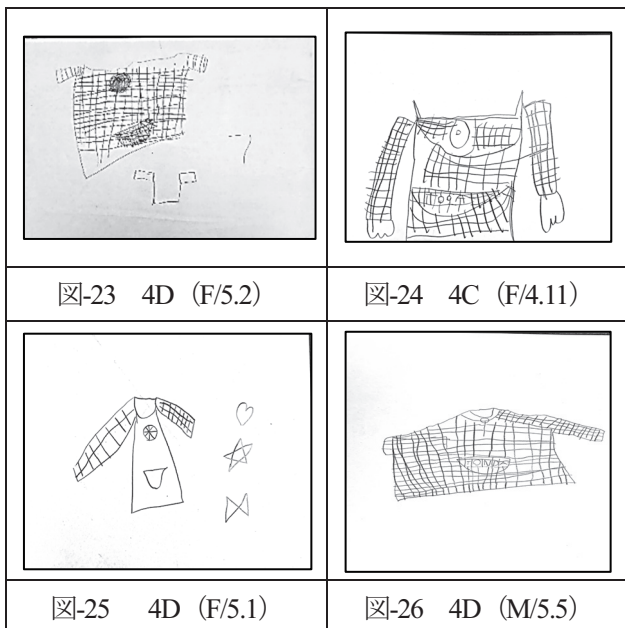
シンプルな線であるが、ボタンを表している。位置を正しく首元辺りに描く幼児もいるが、ほとんどの幼児は、気にせずに思うところに描いている。遊び着の範囲から出ていても気にしていない。

	
図-19 3A (F/4.4)	図-20 3A (M/4.6)



4 歳児～5 歳児では、始点から終点まで整った線で円を描こうとしている。ボタンの穴の意識は多く見られるようになる。穴の表現は、塗りつぶす(※図-23)、中に小さく円を描く(※図-24)、円の中に1本～4本の直径線を描く(※図-25)、小さな同程度の円を描き入れるなど多様化してきている。

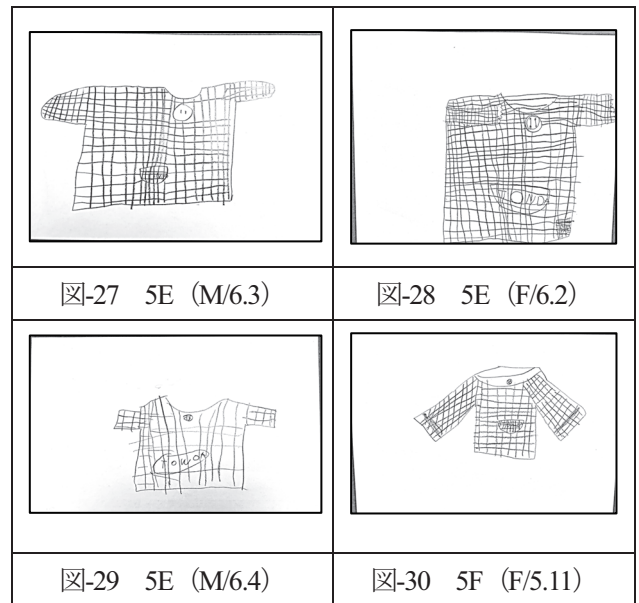
ほとんどの幼児がボタンを円として捉え、描いていることが分かる。また、位置についても首元に固定化しつつあるといえる(※図-26)。



5 歳児～6 歳児では、ほとんどの幼児が、ボタンの穴を意識して描いている。4 つ穴ボタンであるが、その穴の数に拘る表現が多く見られる(※図-27)。しかし、表現は様々で、糸なのか、穴同士を繋げたり等間隔に描こうとしたりする(※図-28)。また、小さな穴を描くのではなく、線でバツやプラス、マイナス、放射線

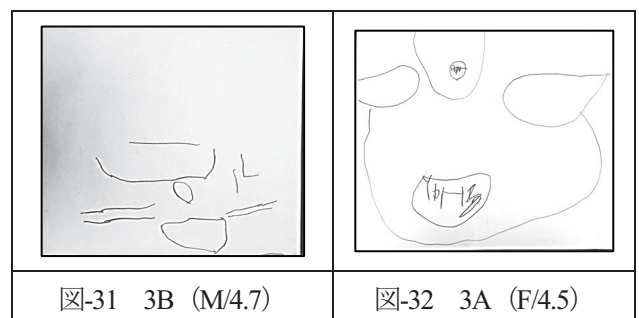
状など糸の方向を描いている(※図-29、図-30)。

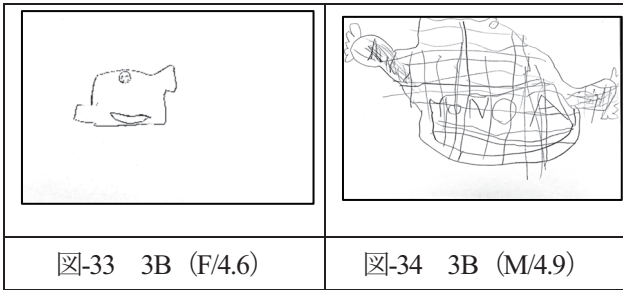
年齢が上がるごとに穴の描き方が多様化していることが分かる。年齢が低い時は、ボタンの形を捉えて表現している。また、ボタンの穴の存在に気付き描こうとしている。そして、年齢がさらに上がってくると、ボタンを留める糸の存在を知っている幼児は、それを描こうとしたり穴に注目したりして描き込もうとする。



●パーツ(袖口)の表現とおおよその年齢の特徴

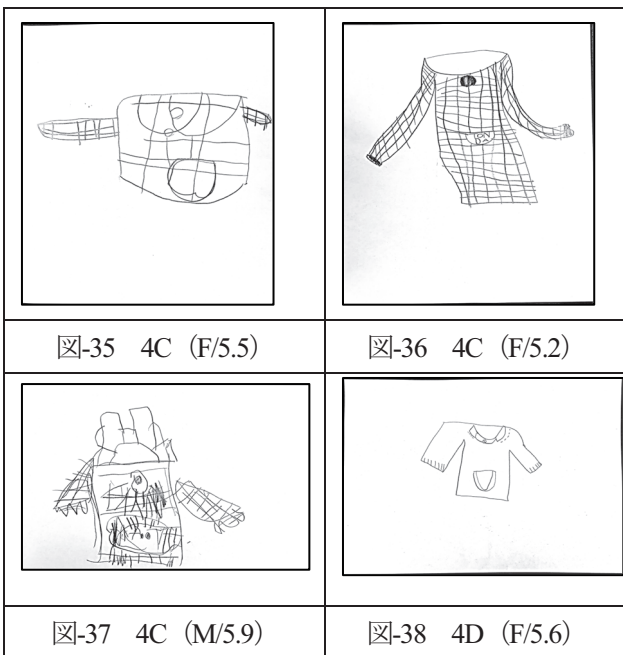
3 歳児～4 歳児では、シンプルな1本の線、並行な2本線で描く幼児もいる(※図-31)が、ほとんどの幼児は、袖口は閉じた状態を描いている。表現としては、塗りつぶしや一筆的(※図-32)、直線的(※図-33)、ギザギザ(※図-34)などが見られる。袖先という意識がある幼児は、先を閉じた表現をしているのだと考えられる。





4歳児～5歳児では、ほとんどの幼児が、袖先を閉じようとしている。閉じ方の表現が様々で、1本の線(※図-35)や帯のようなもの(※図-36)、ゴム状のギザギザ(※図-37)、ゴムの表現として何本も短い線を描く(※図-38)など種類が増えてきている。

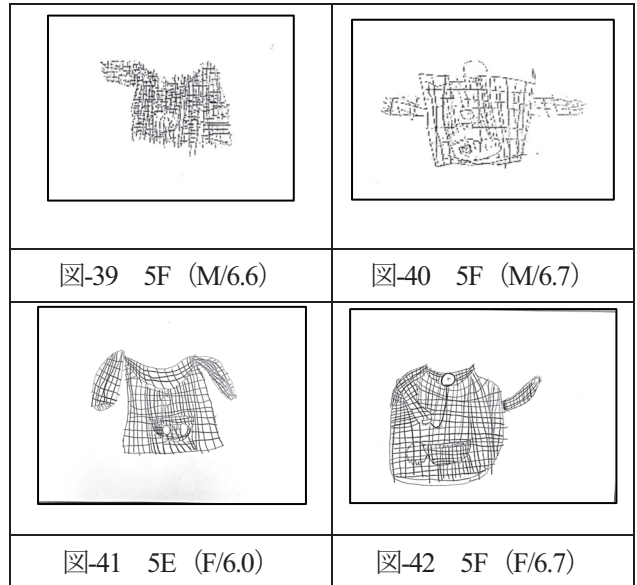
ゴムで絞った袖口に興味をもち、観察して描こうとする幼児が多くなっていると考えられる。この年齢では、ボタンも袖口も同様に、着目する視点が少し明確化してきて、それを自分なりの線で表そうとする気持ちが伝わってくる。



5歳児～6歳児では、ゴムが入っている絞り口の表現がさらに多様化している。先のところを細かな短線で表す(※図-39)、ギザギザはさらに細かく描く(※図-40)。そして、等間隔的に表現し、また、袖の膨らみ具合を表現しようとしている(※図-41)。さらに、腕を通すところであることを知っているため、それを

立体的な表現(※図-42)にしようとしている。

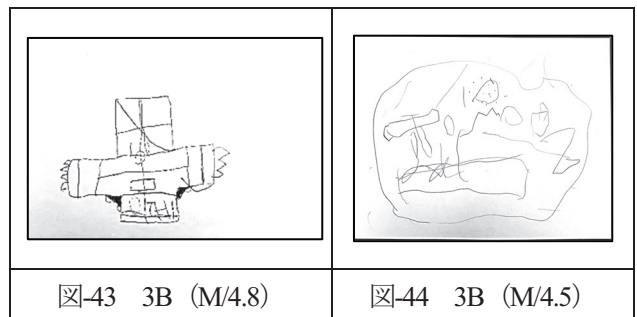
多様化しているが、表し方の特徴が似ているものもあり、いくつかのパターンに分けられるのではないかと考えられる。それは、年齢が高くなるにつれ、概念化してきていることが要因ではないかといえる。

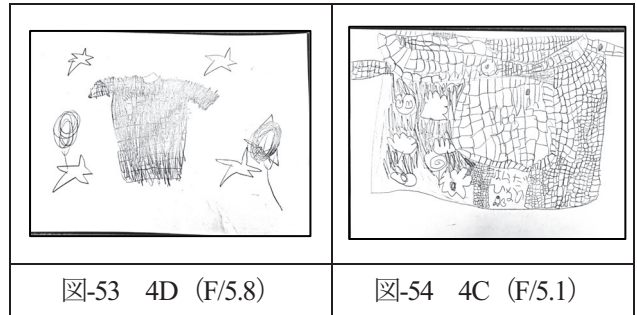
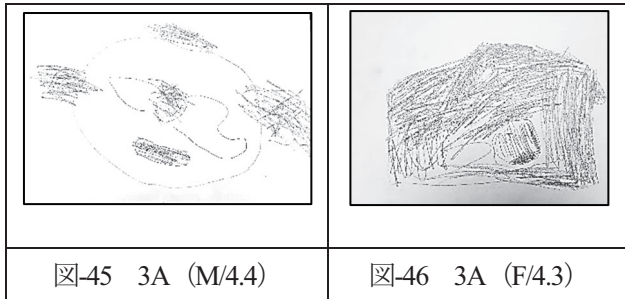


●チェック柄の表現とおおよその年齢の特徴

3歳児～4歳児では、遊び着の身頃内は、描かない、または、塗ろうとする幼児が多い。しかし、5/39(約12.8%)であるが、シンプルな縦横線で表したり、小さな四角を繋げて表現したりする幼児もいる(※図-43)。

柄への着目よりも、身頃にできた空間の中に自分の好きな物を描いている様子が見られる(※図-44)。一方、ポケットなど知っているものへの関心が高いといえる(※図-45)。柄を描くより、服の中を塗り込もうとする幼児は、固執して塗り込んでいる様子が見られる(※図-46)。





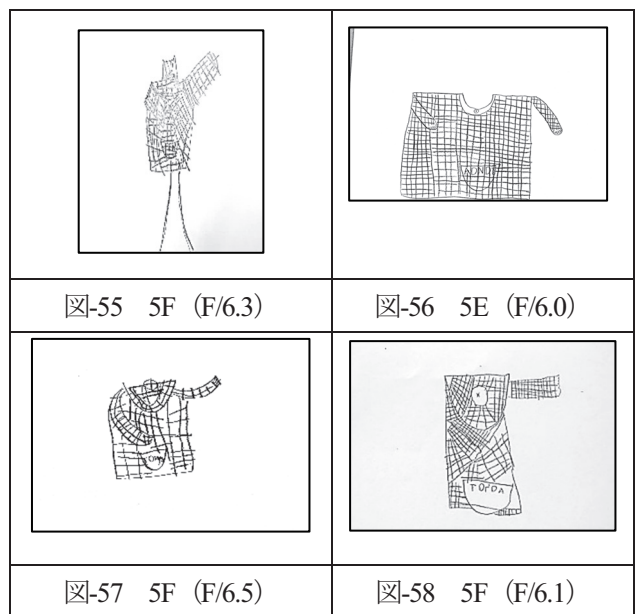
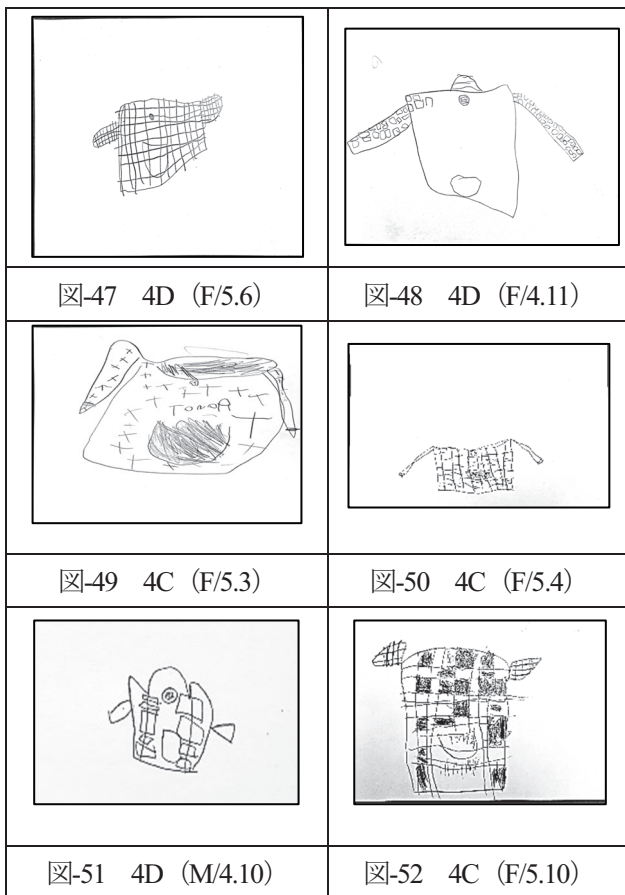
4歳児～5歳児では、36/42 (約 85.7%) の幼児が、縦横線 (※図-47)、小さな四角を前後左右に描く (※図-48)、プラス線 (※図-49)、阿弥陀状 (※図-50)、縦線に四角を刺している (※図-51)、縦横線内の四角を所々塗る (※図-52)、所々の塗りつぶし、無数の線で描く (※図-53)、多様な縦線に横線を何本も引く (※図-54)、など、多種多様な表現をしていた。

この年齢では、同じ物を見ても一人一人の表現は様々で、色々な形になって表れていることが特徴といえる。

5歳児～6歳児では、35/37 (約 94.5%) の幼児が、柄に着目して描き、縦横線や細かな線で表現している幼児が多かった。また、身頃や首元、ポケットなどパーツごとに線の方向や密度を変えている。(※図-55)。1本の線も始点から終点まで丁寧に描き、等間隔になるような几帳面さも見られた。(※図-56)。

一方、多様な表現は、あまり見られず、縦横線で簡略化した表現をしている幼児が多いようにも捉えられた。

しかし、この簡略化した表現だからこそ、パーツごとに線の方向を変える工夫ができるともいえる (※図-57、図-58)。また、首回りや重なり部分に固執が見られることから、幼児は、新しい自分なりの発見をしたところに拘ったオリジナルの表現が生まれてくるのではないかと考えられる。



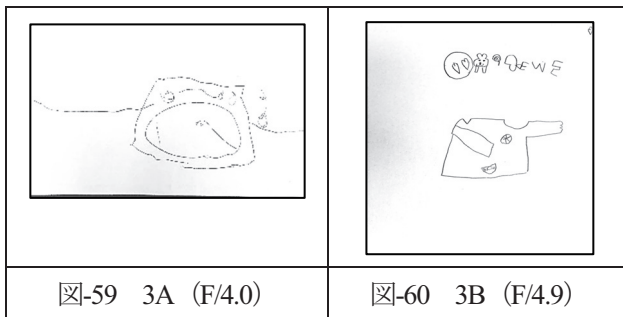
検証2

(B) 重なるの表現から分かったこと

●重なるの表現とおおよその年齢の特徴

3歳児～4歳児で片袖を折り畳み、重なった状態を描いている幼児は、1/39 (約2.5%) だった。袖を描こうとしているほとんどの幼児が、両袖を広げた状態で描いている (※図-59)。しかし1名は、片袖は内側に描き入れ、重なっていることを表現しようとしている (※図-60)。

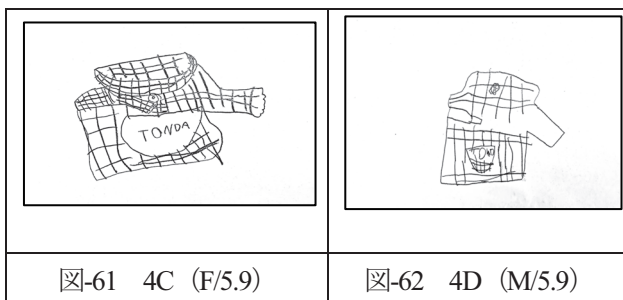
年齢が低い場合、普段から見ている物と付加されて変わった物との違いを見つけることは難しい、または、興味が湧きにくいのではないかと考えられる。日頃から見ている物の方が印象に残りやすく知識として知っているため、それを描いているといえる。



4歳児～5歳児で片袖を折り畳み、重なった状態を描いている幼児は、3/42 (約7%) だった。

3歳児～4歳児とほぼ同様に、袖を描こうとしているほとんどの幼児が両袖を広げた状態で描いている。

しかし、重なるの表現については、上部にある片袖が分かるように柄の縦横線の密度や形を変えて描いている (※図-61、図-62)。この重なり部分に着目していない幼児については、日頃から見知っている状態の物を自然に描いていると考えられる。

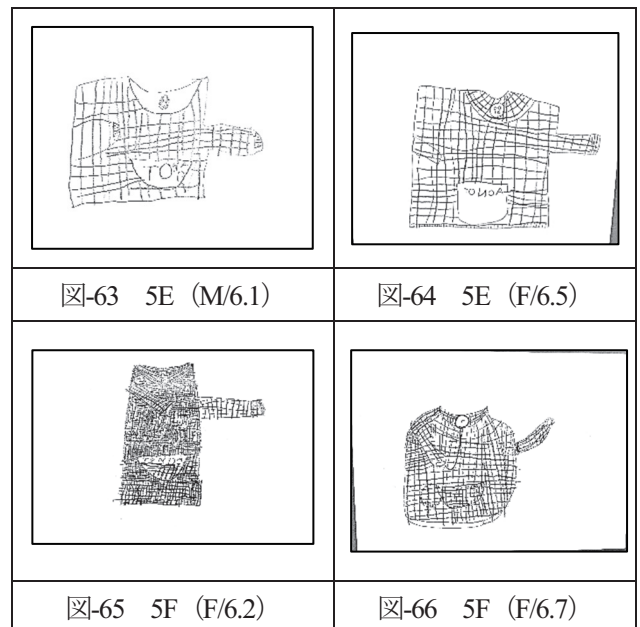


5歳児～6歳児で片袖を折り畳み、重なった状態を描いている幼児は、18/37 (約48.6%) だった。

約半数の幼児が重なり部分を描いていることとなり、これまでの年齢との違いがはっきりしている。この年齢では、日頃とは違う付加された点に関心をもって着目し、物事の状態をしっかりと観察する力があるのではないかと考えられる。

重なり部分の表現は、身頃の柄と同一の線で描く (※図-63、図-64)、上部の袖を意識して線の方向や密度で表している (※図-65、図-66)。興味をもってじっくりと見ることにより、表し方を考えて、どのような線で描くとより伝わりやすいかを工夫していると捉えられる。

また、3～4人の友達と同じ場所で同時に描くため、周囲の影響を受けやすい状況であるといえる。自分に不足している点を友達の作品を見て気付くことや表現方法のヒントを得ることは、この年齢では十分に考えられる。それは、自分も描いてみようという、さらなる意欲を生み出している。



Ⅲ-2 結果

観察画の保育実践を通して幼児期の発達の特徴を捉え、保育者の援助を考えていく。

3歳児～4歳児に対する援助

◎シンプルな線であるが、見ている物を何か形で表そうとする意志が伝わる。

この年齢には、生活にある身近な物には、様々な形があることに興味をもたせると良い。視覚的、または、触覚的な面からアプローチし、形への興味関心をもたせ、その形の特徴から「～みたい」というイメージを広げさせていくと、より遊びが豊かになるのではないかと考えられる。

◎始点から終点までを線で繋げている特徴から、動きには、始まりから終わりがあるという概念の芽生えが見られる。

これは、幼児の遊びにおいても始まりと終わりがあることに関連付けられる。遊びの始まりから幼児の様々な思考がめぐり、終わりに辿り着くときに充実感を得る。幼児の描く1本の線にもこの思考が巡っていると考えられ、保育者は、幼児が描く1本の線の意味を探り、幼児の思いに気付くようにしていくことが望ましい。

◎始点と終点が繋がり、面ができることにより、内と外との区別がつくようになったと考えられる。それは、この年齢の幼児にとり、新たな発見ではないかといえる。内側にあるものを塗り込み、強い意志をもって表そうとしている。

この塗り込みのように、幼児の世界には思い切りやる、気が済むまでやるという拘りの時間を大切に、達成感を味わわせることが大事である。

◎対象物にあるそれぞれのパーツの配置を意識するよりも、知っているから描いていくという幼児の特性が表れている。

幼児の経験値は個々の差異が見られる。様々な経験を通して「知っている」ことが増えていくと、表現の幅も増えてくると考えられる。まずは、幼児の身近にある様々なことに興味をもたせていくアプローチが大

切である。

◎この年齢は、数の概念はほとんどないと考えられる。一つしかないものでも幾つも描いているところが特徴といえる。

数量への興味関心は、年齢が上がると大切なことではあるが、まずは、数量を少しとか沢山というように感覚的に捉える過程が大事である。その感覚を経て、少しずつ数量を認識していくものと考えられる。

◎日頃から見ている状態が変化していることに気付くにくい傾向がある。それは、幼児の生活にある物の形状を概念的に捉えているからではないかと考えられる。しかし、表現されている形を見ると、個々がもつ概念は、様々であることが分かる。

このことから、この年齢では、違いに気付かせていく必要はなく、個々がもつ表現を丸ごと受け入れ、満足感を味わわせることが大切である。

4歳児～5歳児に対する援助

◎3～4歳児に比べると知っている物が増え、それらを描き入れようとする傾向が見られる。それは、幼児自身が周囲の様々な情報をキャッチしていく力が強くなり、生活の中に取り入れようとしているのではないかと考えられる。

その力を助長させるためには、幼児の身近にある物事への興味や関心をもたせ、さらに様々な視点からアプローチをしていく援助が大切となる。そのためには、保育者自身が、日頃から周囲の物事に関心をもつことが大事である。

◎知っている物の形を捉え、その通りに自分なりに描こうという意識が見られる。そして、表現された形は個々のオリジナリティに溢れている。これは、この時期の特性といえる。

保育者の援助として、本来の形を認識させるのでは

なく、個々が表現した形そのものを丸ごと受け入れることが大事である。年齢が高くなってくると、形が概念化され、本来の形を描こうとする時期が来る。だからこそ、この時期に見られる特性を理解し、その感覚を大切に育んでいくことが望ましい。

◎付属の物の位置を意識して描こうとしている様子が見られる。このことは、物同士の関係に関心を持ち、考えられるようになってきた時期だともいえる。それは、ある程度、物の存在を整理しながら生活しているのではないかとも考えられる。

保育者は、幼児の生活周辺にある物が整理されている心地良さをもちたせることが大事になるといえる。心地良い環境は、幼児の心身が安定していくと考えられる。

◎多種多様な線が描けるようになり、線の方向や長さ、密度などを工夫し、表現の幅が広がってきている。

幼児がもつ工夫する力をさらに伸ばしていくために大切なことは、まずは、自分で考えてやってみることである。そこで、上手くいく場合もあれば、いかない場合もある。上手くいかなかった失敗の経験からの学びは多く、次に生かすことで工夫が生まれる。幼児の失敗経験は大切な機会と捉えて、次に挑戦していける意欲をもちたせることが大事である。

◎物に対しての着目点が明確化してきている。その着目した点について、自身が感じたものを表現していることが分かる。

保育においては、まずは、自分が感じたことを十分に主張できる環境が必要となる。自分の思いを素直に表現し、認められる環境の保障は、幼児の自信に繋がっていくと考えられる。

◎数や文字、記号への興味が湧いてくる時期であり、絵にも表れている。それらが、描けるようになった喜

びを絵の中に取り入れていく特徴が見られる。

幼児が描いた全ての表現を保育者は受け入れていくことが大事である。数字や記号は、観察している物とは関係がないと思われがちである。しかし、幼児は、数字や記号が描けるようになった喜びやその時に描きたいものを描くので、画面上に表現されることは自然なことである。だからこそ、保育者は幼児の気持ちを受け止めて共感し共有することが大切である。それは、幼児と保育者との信頼関係の充実に繋がっていくといえる。

5歳児～6歳児に対する援助

◎この年齢では、物の構成に関心をもつようになる。そこには、部分と部分の関係をより知ろうという探求心が見て取れる。

幼児は、物の関係に気付き、関心をもつことが探求心の始まりとなるが、保育者は、幼児が物同士の関係に気付き、発見できる喜びをもちたせることが大事である。

◎数や文字、記号への関心が高まり、それを生活の中に取り入れて使用していく時期でもある。そこに、見たものを正しく表記しようという気持ちが見られる。

援助として、それらを教えたり正しく修正したりはしないが、気付かせていくことは必要である。保育者の直接的かかわりよりも、幼児が周囲の情報により自ら獲得できるように環境を工夫していくことが大切である。それは、幼児自身の学ぶ力へと結びつくと考えられる。

また、生活の中でこれらが使えるようになると知的面の育ちと共に友達との遊びの共有要素となり、遊びがより豊かになるといえる。

◎様々な経験が充実してくるこの年齢では、知っていることの知的な情報と知らないことの未知的情報、見たままの視覚的情報、周囲の話題からの聴覚的情報な

ど、様々な情報収集ツールをもつようになる。

このように多方面に興味が広がりつつあるこの時期は、絵画面でも描きたい欲求が伝わってくる。保育者は、この欲求が満足感へと達していけるように十分な時間と場を提供していくことが望ましい。幼児は満足感が得られると、次もやってみようという新たな意欲がでてくると考えられる。

◎真つすぐな線や等間隔に描こうという表現が見られることから、この年齢は、指先や腕などの力加減をコントロールするようになると捉えられる。力や体、心を自身でコントロールしていくことは、この時期以降、さらに大切になってくる。

コントロールできるようになるためにも、強い・弱い、固い・柔らかい、熱い・冷たいなど、様々な感覚を遊びの中で経験していくことが大事である。その感覚は、指先や手、肌など、直に触れて感じさせていくことで養われ、やがて、自身をコントロールすることに繋がっていくと考えられる。

◎友達や周囲の影響が大きい時期である。特に友達の行動や動作、言葉、作品などを見て、新たな気付きや発見ができる。これは、表現の幅が広がる要因になっているといえる。

このことから、幼児のこの時期の生活にとって友達とのかかわりは非常に大事である。保育現場では、友達の存在や思いなどを感じさせながら援助していくことが大切である。

幼児の作品を紹介する場合も、作品同士の比較ではなく、友達が描いた思いや考えに気付けるような伝え方にすると、より作品を通じて友達の良さにも気付いていける。

また、友達の作品に関心や憧れをもち、真似をして描くこともあるが、その過程も大切である。その経験を経て、自信をもって自分の思いが表現できるようになると考えられる。

◎物の重なりが強調された状態に関心をもち着目している点から、この時期は、物事を観察する力が付き始めているといえる。しかしながら、実際は見たことだけでなく、知っていることも描こうとしている。

また、重なり部分は、線の方向や密度で表している。これは、見たことや知っていることを線でどのように表現したら良いか、幼児なりに工夫した表現だといえる。

これらのことから、物を観察する経験は、幼児の生活に刺激となるのではないかと考える。そして、それを表現化していくことで、自分の目で見たものを作品として再度、視覚体験できるのではないかと考える。

保育者は、まず観察することの楽しさや面白さを伝えていくことが大切である。幼児と共に観察し様々な発見や違いなどに気付き共感する援助により幼児は、自信をもって物事にかかわっていけるようになると考えられる。また、この時期の特徴である友達の影響を受けて気付く場合もあるが、保育者が観察する視点を助言することも表現を深めるために必要である。

Ⅲ-3 考察

同じ対象物を見て描いた3歳児から6歳児の作品から、表現の変容とそれに伴う幼児の発達がおおよそ理解できた。だからこそ、幼児が描くという環境が、保育現場では必要であることが改めて分かった。

幼児自らが進んで描画活動に取り組める物的環境を作ることが大事であり、保育者のかかわりである人的環境も大事である。そして、保育者は、一人一人の成長に沿った援助を思考していくことが大切である。

前述の結果では、おおよその年齢枠での保育者の援助を挙げているが、一人一人の発達の状況に応じての考えが必要となる。

また、3歳児～6歳児の表現は変化していることが分かった。幼児の絵を理解する保育者の力と気持ちが大事である。例えば、幼児が描いた1本の線に対して

「なぜこの線を描いたのだろう」と、保育者自身が着目し、幼児の気持ちを考えることが幼児理解に繋がっていく。

それらのことを保育者同士がカンファレンスしていくことで、さらに幼児の絵を見る目が養われ、幼児理解が深まっていく。この保育者同士の学び合いこそが幼児の発達援助に必要なのである。

IV 研究のまとめ

本研究では、幼児期の生活にとって自然な行為であり遊びである描画活動に着目し、幼児の発達過程とそれに対する保育者の援助を考えてきた。

今後の近未来を見据えても、幼児の描く活動は絶えることなく継続的に行われると予想される。そうであれば、保育現場で行われる描画活動において幼児の発達とそれに応じた保育者の援助について、今後も研究していく必要がある。

保育現場で幼児が描く絵には、自然発生的に描く絵や与えられたテーマで描く絵、そして、観察して描く絵など様々な活動風景がある。本研究では、観察画という一つの視点で考察を行ってきた。これを継続して研究していくことで、さらに、幼児理解と保育者のより良い援助が明らかになるのではないかと見える。

そこで、今回は、幼児の1年の活動を取り上げているが、その1年後の変容を追跡し、継続的に研究をしていきたいと考えている。

謝辞

本研究にあたっては、至誠館大学名誉教授国広勝代先生、学校法人小田学園富田幼稚園 小田蘭子園長先生、有村麻里教諭、川上南海教諭、川崎恵子教諭、椎木佑果教諭、福田佳乃子教諭、福田梨奈教諭、藤岡みゆき教諭には、大変お世話になりました。ここに記して感謝の意を表します。

[引用文献]

- 1)柴田精一 (2020) 「保育者養成教育における観察画」『大阪城南女子短期大学研究紀要』 55, 111
https://jonan.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=1019&file_id=22&file_no=1 (アクセス日 2023.10.31)
- 2) Maruman マルマン株式会社 (2021) 「イラストに適した用紙は画用紙? クロッキー紙? 筆記用具・画材別に紹介!」 <https://www.e-maruman.co.jp/yomubungu/detail/20210908214515.html> (アクセス日 2023.11.6)

[参考文献]

- 1)V. ローウェンフェルド著、竹内清、堀ノ内敏、武井勝男訳 (1987) 『美術による人間形成—創造的発達と精神的成長』 黎明書房
- 2)ローダ・ケログ著、深田尚彦訳 (1986) 『児童画の発達過程』 黎明書房
- 3)ハーバート・リード著、植村鷹千代、水沢孝策共訳 (1970) 『芸術による教育』 美術出版社
- 4)無藤隆、汐見稔幸、砂上史子 (2017) 『ここがポイント! 3法令ガイドブック - 新しい「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の理解のために』 フレーベル館
- 5)柴田精一 (2020) 「保育者養成教育における観察画」『大阪城南女子短期大学研究紀要』 55,111-121
https://jonan.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=1019&file_id=22&file_no=1 (アクセス日 2023.10.31)
- 6)高山静子 (2017) 『学びを支える保育環境づくり～幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成～』 小学館
- 7)大橋麻里子、高橋敏之 (2020) 「保育実践における描画活動を対象とする研究の動向と課題—生活画に焦点を当てて—」『美術教育学研究』 52 (1), 89-96
https://www.jstage.jst.go.jp/article/uacsj/52/1/52_89/_article/-char/ja/ (アクセス日 2023.10.31)